

第1回 7月24日(月)

今回のテーマは、「明るい教室づくりの基本的な考え方」でした。

本日の講座の目的は、①行動分析学の重要な概念である「正の強化」について学ぶ ②どのようにして「正の強化」を使用して、望ましい行動を促進し望ましくない行動を減らすことについて学ぶ ③「正の強化」を使用する際のポイントや注意点について学ぶことでした。

- 1 なぜ、教室の雰囲気が暗くなるのか
雰囲気暗い、先生が大変だと思うクラスの特徴は…
 - ① 厳しいルールやペナルティが主体である。
 - ② 教師中心で授業が進められ、児童生徒の発言や自主性があまり尊重されない。また、児童生徒たちの取組に対して教師が積極的に評価やフィードバックを行っていない。
 - ③ クラス全体に対して一律の待遇や評価が行われ、個人差があまり考慮されない。
 - ④ 教師や児童生徒たちがネガティブな態度や言動を取ることが多い。(いじめや嫌がらせがある場合も…)
- 2 「正の強化」とは…行動分析学の理論の一つ
 - ・ある(自発的)行動の結果として
 - ・何らかの刺激が出現することで
 - ・以降の生起頻度が維持、増加すること例) 先生に名前を呼ばれる→「はい」と返事をする→先生に笑顔を返される
- 3 「正の強化」を使用するポイント
 - ① **適切なタイミング**→望ましい行動が行われた直後に行うこと
 - ② **ちょうどいい強さ**→適切な大きさのものでなければ効果がない
例) 大きさにほめ過ぎると、内発的動機付けが起きているものに外発的動機付けを与えてしまう。
 - ③ **一貫性**→昨日は褒められたのに、今日は褒められない…
 - ④ **望ましい行動をはっきりさせる**→望ましい行動を明確に定義し、その行動が行われた場合には必ず強化する。
 - ⑤ **できるだけ褒めやすい環境づくりをする**→大勢の中で褒める方が効果的なのか、個別の方が良いのか、褒めるタイミングを見極める。正の強化子が子ども同士の中で起きる仕組みをつくる。

受講者からの受講後の感想の一部を以下に紹介します。

- 褒めることを重視して取り組んできたが、個によってそれが強化子にならないということを知り、改めて個に応じたかかわりをしていかなければならないことに気がきました。
- 子どもの行動を見取り、正の強化を増やしていくこと。たぶん心がけていますが、逃してしまうこともあり、悩むところです。いい方向に向かうよう2学期からの声かけや働きかけに努力したいです。
- これまでの自分の生徒への関わり方を改めて考える良い機会となりました。生徒にとってどの強化子が適切か考えながら教育活動に努めたいです。